

第 3 章

栃木県農業の強みと可能性

1. 本県農業の強み

(1) 多様な農業生産を展開できる豊かな農地と水資源

栃木県は、広大な耕地面積を有し、平坦な農地から標高1,200mを超える高冷地まで、地域の特徴を活かした多様な農業が展開されています。さらには、那珂川や鬼怒川、渡良瀬川等の豊富な水資源に恵まれており、豊かな農地と水資源を活かした多彩で高品質な農産物生産が可能です。

【平成28年産出額が全国3位以内の農産物】

全国順位	品目	産出額(億円)
1	いちご	285
	もやし	120
	二条大麦	38
	かんぴょう	9
2	生乳	349
	にら	63
	乳牛	59
	シクラメン(鉢)	8
	うど	7
	こんにゃくいも	4



水を湛えた水田
(とちぎのふるさと田園風景百選認定地)

【耕地関係(平成28年)】

耕地面積(田畑計) 123,900ha(全国10位)

耕地率(※) 19.3%(全国5位)

※ 耕地率とは、県土面積に占める耕地面積(田畑計)が占める割合

(2) 高い経営力、技術力を有する豊富な人材

販売額3,000万円以上の農家数の割合が全国第10位、また、5ha以上の販売農家数の割合が全国第5位となっているなど、高い経営力を備えた農業者が増えてきています。

平成28年の農業産出額は2,863億円であり、平成7年に比べて88億円減少しているものの、順位は14位から9位に上昇しています。

中でも、野菜については、平成28年産出額が全国8位の964億円と、平成7年(649億円)と比べると、315億円増加するなど、本県農業の中で最も成長力のある分野となっています。

さらには、昭和43年産以降生産量日本一の「いちご」は、10a当たりの収量が4.29t(平成28年)で、全国平均(2.96t)を大きく上回っているなど、高い技術力があります。

このように本県は、広大な農地や豊富な水資源等の地理的条件に加え、農業者が高い経営力と技術力を有しており、農業競争力のさらなる向上が期待できます。

【販売農家】

品 目		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
3,000万円以上の販売農家率	%			1.2 (764戸)	1.9 (743戸)10位
1,000万円以上の販売農家率	%	5.8 (4,513戸)	7.0 (4,972戸)	6.5 (4,198戸)	9.3 (3,691戸)14位
5ha以上の販売農家率	%	3.6 (2,763戸)	4.4 (3,112戸)	5.5 (3,508戸)	9.3 (3,687戸) 6 位
総農家	戸	77,532	71,471	64,337	55,446

【野菜の産出額の推移】

(億円)

年	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
産出額	730	730	765	778	763	789	776	815	810	803	883	964

【いちごの生産量の推移】

(千トン)

年	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
生産量	30.8	30.2	30.9	30.0	28.9	27.9	29.3	25.9	26.0	25.4	24.8	25.1

【いちごの単収の推移】

(トン/10a)

年	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
栃木県	4.71	4.67	4.78	4.68	4.53	4.37	4.63	4.19	4.30	4.21	4.18	4.29
全国平均	2.85	2.81	2.91	2.95	2.90	2.89	2.95	2.85	2.96	2.94	2.91	2.96



2. 全国9位の農業産出額を支える本県農業の様々な強み

1. やっぱり米どころ。主食用米も飼料用米も栃木がリード

平坦な土地や豊富な水に恵まれた地理的条件に加えて、コシヒカリ安定生産技術の蓄積が強みとなっています。

- 米の産出額 **全国9位**
- 飼料用米の作付面積 **全国1位**
- 過去30年間の単収向上率 **全国1位**

【解説】昭和61年、それまでの「くさまさり稲（茎葉が茂りすぎて倒伏しやすい）」を改善するためのプロジェクトを県農業試験場を中心として立ち上げ、生育診断を核とした施肥管理技術を確立・普及し、「じっくり型稲（茎数は少ないが倒伏しにくく登熟が良い）」へ転換しました。これにより昭和61年から平成29年の30年間で単収は422kg/10aから540kg/10aとなり、単収では関東1位、向上率では全国1位へと飛躍しました。

2. 全国有数の実力をもつトマト生産。一年中おいしいトマトを全国へ

促成長期どり作型の技術開発や低コスト耐候性ハウスの導入が、生産拡大に貢献しています。

- トマトの産出額 **全国6位**
- トマトの単収 **全国2位**（栃木県9.6t/10a 全国平均6.1t/10a）
- 冬春トマトの出荷量 **全国3位**

【解説】ハイワイヤーを用いた多段取りの栽培技術を県農業試験場が開発し、低コスト耐候性ハウス（強風・積雪等に強く、設置コストが比較的安価）と組み合わせた栽培体系により、作形が前進化し、特に11月から2月の出荷量の拡大につながっています。低コスト耐候性ハウスは、国の事業等を活用するなどにより、導入が促進され、県内では平成28年度末で30ha導入されています。

（低コスト耐候性ハウス）



3. 適地適作の実践。食卓おなじみ野菜も栃木は高順位

本県では、土質や気候等のそれぞれの土地条件を活かした多様な野菜の生産が可能です。水田の有効活用も進んできています。

- | | | | |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| ■なすの産出額 | 全国5位 | ■さやいんげんの産出額 | 全国7位 |
| ■さといもの産出額 | 全国5位 | ■たまねぎの産出額 | 全国7位 |
| ■はくさいの産出額 | 全国5位 | ■スイートコーンの産出額 | 全国8位 |
| ■ごぼうの産出額 | 全国5位 | ■アスパラガスの産出額 | 全国8位 |
| ■しゅんぎくの産出額 | 全国6位 | ■きゅうりの産出額 | 全国8位 |
| ■ほうれんそうの産出額 | 全国7位 | | |

4. 夏は「りんどう」の青、冬は「シクラメン」の赤が彩る栃木県

りんどうは収穫前進化の栽培技術（施設栽培）がシェア拡大に寄与しています。夏の冷涼な気候を活かした鉢物生産も盛んです。

■りんどう（5～6月）の東京都中央卸売市場取扱金額 **全国1位**

■シクラメン（鉢）の産出額 **全国3位**

5. 畜産県栃木。「とちぎ和牛」の品質は全国コンクールでも折り紙つき

肥育技術の向上により、美味しい牛肉・豚肉を追求してきた成果です。

■全国規模の肉用牛枝肉共励会における最高位獲得数

6回

■肉用牛産出額 **全国9位**

■養豚の産出額 **全国9位**

※全国規模の肉用牛枝肉共励会・・・

全国肉用牛枝肉共励会、全農肉牛枝肉共励会、等



6. 栃木県は「水」や「いきもの」と調和した“エコ農業”の発信地

水田、施設園芸、畜産を支える豊富な水があります。水環境を育みながらエネルギー利用も積極的に推進しています。

■ウォーターカーテン利用面積 **全国1位**

※ ウォーターカーテン：本県ではいちご等のハウスで利用され、地下水をハウスの内張りカーテン上に散水し、ハウス内空気との熱交換を行うことにより保温する技術

■生きもの調査取組組織率 **全国1位**

※ 生きもの調査取組組織率：多面的機能支払（共同活動）実施組織のうち、田んぼのまわりの生きもの調査・保全活動に取り組む組織の割合

■環境保全型農業直接支払交付金の実施面積 **全国7位**

※ 環境保全型農業直接支払交付金：化学肥料、化学合成農薬の使用を慣行の5割以上削減した上で、カバークロープや冬期湛水管理などに取り組む事業

※ 産出額及び単収は主に農林水産統計から、東京都中央卸売市場取扱金額は東京都中央卸売市場統計情報から、その他各種事業調べにより掲載